

二学期の締めくくりをしっかりと！

早いもので、今年も残すところあと1ヶ月となりました。12月は、二学期のまとめの月であり、1年の締めくくりの月でもあります。朝夕の冷え込みも厳しくなり、体調を崩しやすい時期です。また、大津市内でもインフルエンザが流行し、学級閉鎖が出ている学校もあります。体調管理に気をつけ、学習・生活の両面にわたり、二学期のまとめをしっかりとしてほしいと思います。

みんなちがって、みんないい 12月4日~10日は「人権週間」です！

みなさんは、金子みすゞさんの「私と小鳥と鈴と」という詩を知っていますよね。この詩は小学校3年生の国語の教科書に載っています。「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。」という最後のフレーズはだれの心にもやさしく、あたたかく響いてきます。

さて、この詩は何を伝えているのでしょうか。解釈はさまざまです。私と小鳥と鈴、それぞれにできること(得意なこと)と、できないこと(苦手なこと)があります。誰一人、何一つ同じものはなく、それぞれに特性や価値があるからこそ、みんなそれぞれが素晴らしく、大切な存在なんだ、そして、それぞれを認め合うことが大切なのだということを、教えてくれているように感じます。

また、題名では、一番最初にある「私」が、詩の最後には、「私」の位置が後になっています。相手を理解しようとするとき、自分優先ではなく謙虚な気持ちが大切であることを語っているようにも感じます。「私と小鳥と鈴と」、いろいろなことを教えてくれる詩です。そして、「みんなちがって、みんないい。」大切にしたい言葉です。

さて、12月4日から10日は「人権週間」です。国際連合は、1948年12月10日の第3回総会で「世界人権宣言」が採択されたことを記念し、1950年に12月10日を「人権デー」と定めるとともに、全ての加盟国にこれを記念する行事を毎年実施するように呼びかけています。我が国では、1949年から毎年12月10日を最終日とする一週間(12月4日から10日まで)を「人権週間」と定め、人権について考える様々な行事が全国的に展開されています。人権とはすべての人が生まれながらに持っている、幸せに生きていくための権利です。皆さんは、遊びや日常生活の中での何気ない言動で、知らず知らずのうちに誰かを傷つけていることはありませんか。この機会に、自分自身の言動や人権について考えてみましょう。併せて、「めざす生徒像」の三つ目、「**お**おらかな心をもつ生徒」を再確認してください。

私と小鳥と鈴と
私が両手をひろげても、
お空はちっともとべないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面(じべた)を速くは走れない。
私からだをゆすつても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんの唄(うた)は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

金子みすゞ [1903-1929] の詩

「おらかな心をもつ生徒」

おらかな心は、人を思いやり、感謝する心とその根っこになっています。私たちは自分一人では生きられません。家族、友達、先生、地域の方々など、多くの人たちの支えがあって生きています。いや、生かされています。そのことが本当にわかると、自ずと思いやりの心は感謝の気持ちと一緒に湧いてきます。また、自分と他人との違いを認め、多様性を受け入れることの大切さもわかってきます。決して友達の心を傷つけたり、自分勝手なことをしたりはしません。毎日の生活を真剣に生きる中で、おらかな心をもつ生徒になりましょう。

※人権週間にちなんで、学校司書の先生が図書室に「人権に関する本」のコーナーを作ってくださいました。金子みすゞさんの詩集もあります。自分のこと、友達のこと、家族のことを見つめるきっかけになればと思います。展示コーナーは、図書室入口です。ぜひ手に取ってみてください。

